

トラック輸送情報（平成22年2月分）

平成22年6月1日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：中野、久島、菊池 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

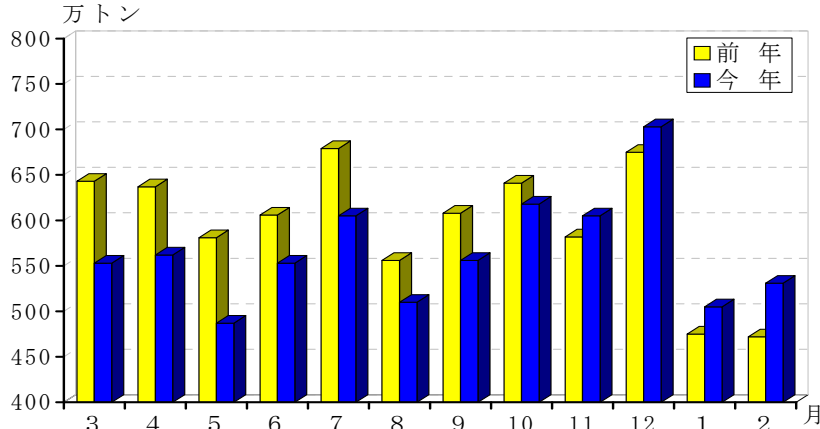
調査対象27社の本月の輸送量は、5,310,876トンで、前月と比べ総輸送量が約26万トン増加したため、前月比105.1%（季節調整済み98.6%）となり、前年同月との比較では、約59万トン増加したため、前年同月比112.6%の実績であった。

なお、平均稼働日数は22.7日で、前月と比べ0.5日増加し、前年同月と比べ0.3日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、233,959トンで、前月と比べ約6千トン増加したため、前月比102.8%となり、前年同月との比較では、約2万3千トン増加したため、前年同月比111.1%の実績であった。

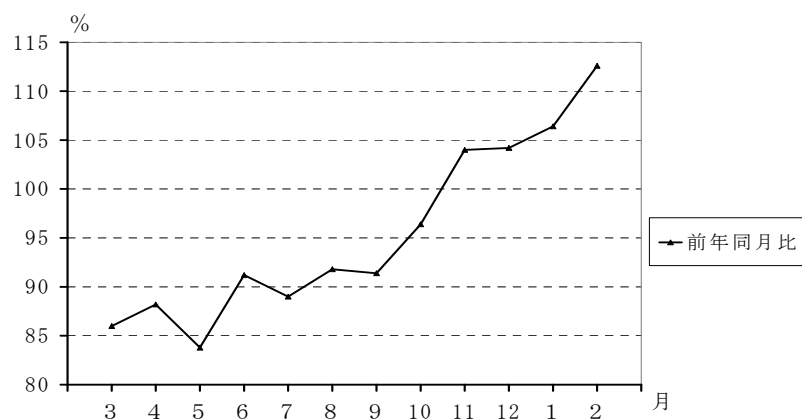
(図1-1、図1-2参照)

注) 平成21年4月から貨物輸送の調査対象については、1社増え、27社となった。

(図1-1) 輸送トン数の推移



(図1-2) 輸送トン数の前年同月比



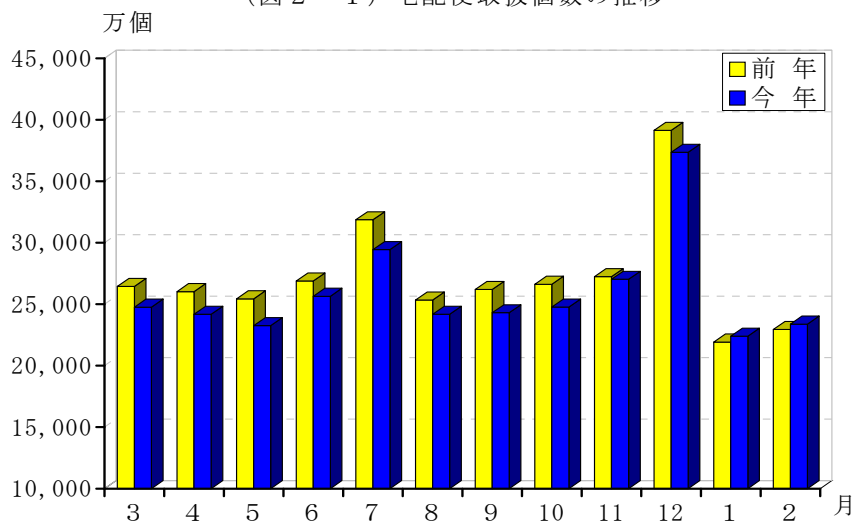
(2) 宅配便の概況

調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、233,832 千個で、前月と比べ 約 984 万個増加したため、前月比 104.4% (季節調整済み 98.8%) となり、前年同月との比較では、約 437 万個増加したため、前年同月比 101.9%の実績であった。

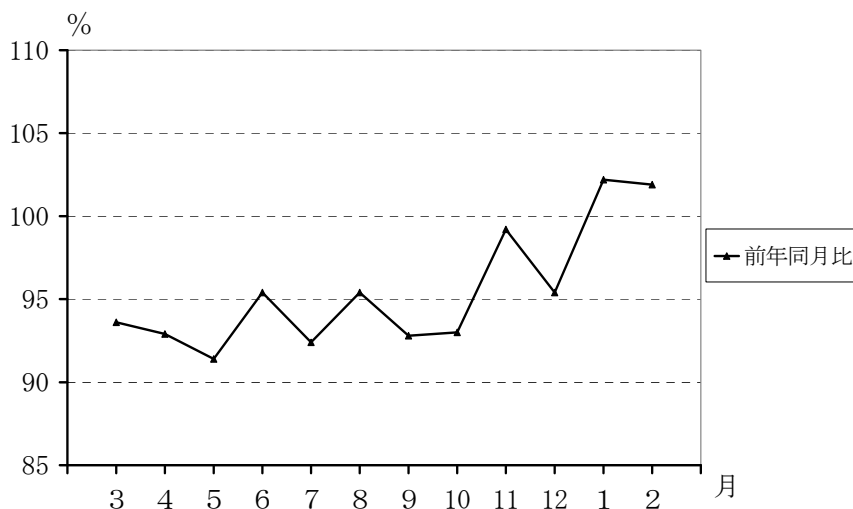
(図 2-1、図 2-2 参照)

注) 平成 21 年 4 月から宅配便輸送の調査対象については、1 社減り、19 社となった。

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 27 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、稼働日数の増加等により、全般的に輸送量が増加した。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増がほぼ全ての品目に共通してみられたほか、「機械」、「化学工業品」、「食料工業品」、「日用品」では倉庫から出る貨物増等も要因となっている。地域的には、「日用品」がほぼ全国的に増加したほか、「機械」、「化学工業品」、「食料工業品」が関東地方、中部地方、近畿地方等で、「金属製品」が北陸信越で、「繊維工業品」が神奈川で、「その他 (宅配便)」が関東地方、中国等で増加している。

前年同月と比べると、倉庫から出る貨物増により、「金属製品」、「化学工業品」で、工場・生産地からの貨物増により「日用品」で輸送量の増加がみられた一方で、工場・生産地からの貨物減により「農水産品」で、倉庫から出る貨物減により「繊維工業品」等で輸送量が減少している。地域的には、「金属製品」、「機械」、「化学工業品」等が関東、中部地方、大阪、兵庫、中国等で増加がみられた一方で、「農水産品」が北海道、東北、中国で、「繊維工業品」が神奈川、関東、大阪、近畿等で減少している。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因		
	著 増	増	変 らず	減 減					
前 月 に 比 べ て	農水産品		4	11	2	1		4	
	金属製品	2	4	13	2		その他の金属製品	北陸信越	4
	機 械	1	7	10	3		電気機械、機械部品	関東地方、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	化学工業品		9	12	1		その他の化学工業品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	繊維工業品	1	3	15	3			神奈川 系 中部	
	食料工業品	1	5	12	2		製造食品、飲料、加工食品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、福岡	4, 7, 8
	日 用 品		10	9	3		玩具、その他の日用品	北海道、東京、神奈川、北陸信越、中部、兵庫、近畿、中国、九州、全国	4, 5, 7, 8
	そ の 他	1	8	9	4		宅配便 百貨店配送品	関東地方、中国、全国	2, 4 8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		3	10	4	1	野菜、農産品、青果物	北海道、東北、中国	4
	金属製品	4	3	11	3		その他の金属製品	関東、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、福岡	7
	機 械	3	5	10	3			神奈川、関東、北陸信越、中部地方、大阪、兵庫、中国	
	化学工業品	2	5	13	2		合成樹脂、その他の化学工業品	関東地方、中部地方、大阪、兵庫、中国	7
	繊維工業品	1	3	13	4	1	織物	神奈川、関東、大阪、近畿	7
	食料工業品	1	4	10	4	1	加工食品 飲料	東京、神奈川、北陸信越、中部地方、近畿地方	7
	日 用 品	1	4	13	3	1		東京、神奈川、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	そ の 他	2	3	11	3	2	宅配便 百貨店配送品	東京	5, 9 2

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市県(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市県を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市県を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 763 社／調査対象事業者数 1,093 社）の輸送量は、前月比 102.3%、前年同月比 105.8%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前月比	102.3%	99.4%	99.7%	103.3%	112.1%	102.8%	102.1%	108.2%	99.7%	102.7%	100.2%
前年同月比	105.8%	104.7%	103.0%	107.7%	111.1%	110.6%	98.6%	113.5%	104.0%	104.6%	96.9%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	本月の輸送は、対前月比 99.4%、対前年同月比 104.7%であった。品目別には、建設関連の需要増等により「セメント」、「その他の窯業品」等の輸送量が増加したほか、降雪による季節的需要増等により「廃棄物」等の輸送量が増加している。一方、工場・生産地からの貨物減等により「穀物」等の輸送量が減少したほか、季節的需要減等により「野菜・果物」等の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月は引越しや工事関係等の輸送は期待できるものの、石油関係や排雪運搬がなくなるためほぼ横ばい、以降は減少傾向と予想される。
東北	本月の輸送は、対前月比 99.7%、対前年同月比 103.0%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増により「砂利・砂・石材」、「非鉄金属」、「機械」の輸送量が増加したほか、季節的需要増等により「日用品」等の輸送量が増加している。一方、不況の影響等により「工業用非金属鉱物」、「鉄鋼」、「金属製品」、「紙・パルプ」等の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともにほぼ横ばいと予想される。
関東	本月の輸送は、対前月比 103.3%、対前年同月比 107.7%であった。品目別には、季節的需要増により「その他の石油製品」の輸送量が増加した。一方、不況の影響により「日用品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともにほぼ横ばいと予想される。
北陸信越	本月の輸送は、対前月比 112.1%、対前年同月比 111.1%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「石炭」、「機械」、「化学肥料」等の輸送量が増加した。一方、建設関連の需要減等により「木材」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいと予想される。
中部	本月の輸送は、対前月比 102.8%、対前年同月比 110.6%であった。品目別には、季節的需要増等により「機械」等の輸送量が増加した。一方、商社・問屋からの貨物減等により「取り合せ品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともにほぼ横ばいと予想される。
近畿	本月の輸送は、対前月比 102.1%、対前年同月比 98.6%であった。品目別には、建設関連の需要増等により「鉄鋼」の輸送量が増加したほか、季節的需要増等により「機械」等の輸送量が増加している。一方、工場・生産地からの貨物減等により「金属製品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
中国	本月の輸送は、対前月比 108.2%、対前年同月比 113.5%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「工業用非金属鉱物」、「非鉄金属」、「その他の窯業品」、「その他の製造工業品」等の輸送量が増加したほか、季節的需要増等により「その他の農産品」等の輸送量が増加している。一方、工場・生産地からの貨物減等により「化学薬品」、「繊維工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は年度末であるため一時的に増加傾向、以降は減少傾向と予想される。
四国	本月の輸送は、対前月比 99.7%、対前年同月比 104.0%であった。品目別には、季節的需要増等により「化学肥料」、「日用品」等の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「野菜・果物」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。
九州	本月の輸送は、対前月比 102.7%、対前年同月比 104.6%であった。品目別には、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」等の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「野菜・果物」等の輸送量が減少したほか、不況の影響等により「日用品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいと予想される。
沖縄	本月の輸送は、対前月比 100.2%、対前年同月比 96.9%であった。品目別には、季節的需要増により「日用品」等の輸送量が増加した。一方、商社・問屋からの貨物減により「機械」の輸送量が減少したほか、季節的需要減により「穀物」の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局	北	東	関	北信	中	近	中	四	九	沖	全	
		海	海	北	東	陸	越	部	畿	国	国	州	縄	国
		道	道	道	道	越	越	部	部	国	国	州	縄	計
1. 穀	増			1		1				1	1		4	
	減	4	1									1	6	
2. 野菜・果	増										3		3	
	減	2	1							1	4		8	
3. その他の農産品	増			1		1			2		1		5	
	減		1	1									2	
4. 畜産品	増	1								1	1		3	
	減													
5. 水産品	増	2				1					1	1	5	
	減		1			1							2	
6. 木	増	2	1									1	4	
	減	3				2			1				6	
7. 薪	増													
	減													
8. 石	増					1							1	
	減													
9. 金属	増					1					1		2	
	減													
10. 砂利・砂・石材	増	4	1			2			4		2		13	
	減	5					1		1		2		9	
11. 工業用非金属鉱物	増	1				1	1		1	1			5	
	減	1	2			1					2		6	
12. 鉄	増	1				1		2	4	1	2	1	12	
	減	1	1			1		1	1		1		6	
13. 非鉄金属	増		1						1				2	
	減													
14. 金属製品	増					1		1	3		1		6	
	減	1	2			1		3	3				10	
15. 機	増	2	1	1		6	3	2	3		2		20	
	減			1		2	1		2		1	1	8	
16. セメント	増	3		1		2			2		3		11	
	減	1				1					3		5	
17. その他の窯業品	増	2	2			1			1				6	
	減													

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	1	1		1					
	減	1			1				1			3
19. その他の石油製品	増	2		1	1		2	1		1		8
	減				1			1	1	1		4
20. コークス・その他の石炭製品	増											
	減											
21. 化学薬品	増		1				2			1		4
	減	1	1					1				3
22. 化学肥料	増				3			2	1			6
	減											
23. その他の化学工業品	増	1			1			1		2		5
	減							2		1		3
24. 紙・パルプ	増	1			1	1	1	2		1	1	8
	減		1					2		2		5
25. 繊維工業品	増								2	1		3
	減							1		1		2
26. 食料工業品	増		2		2		3	3		3		13
	減		1		3	1	3	2	3	4		17
27. 日用品	増	1	1					2	2	1	1	8
	減	2		1			1			3		7
28. その他の製造工業品	増		1			1	2	2		5		11
	減				2			1		1		4
29. 金属くず	増										1	1
	減											
30. その他のくずもの	増							1		3		4
	減									2		2
31. 動植物性飼・肥料	増	1	1							2		4
	減	2	1		1						1	5
32. 廃棄物	増	15						1	1	1	1	19
	減	4						1	1			6
33. 輸送用容器	増				1							1
	減								1			1
34. 取り合せ品	増									1		1
	減					1					2	3
35. その他	増			2	2	2	2	2		2		12
	減	2	3				3				1	9